市立学校

より良い教育環境を目指して

◎問い合わせ先
教育委員会教育総務課☎㉕6592

市内の小中学校は、急激な少子化による小規模化が進み、また、一部の施設では耐震補強が必要な状況となっています。

市教育委員会は、昨年度一関市立学校通学区域調整審議会からいただいた学校規模適正化の基本的な考え方に関する答申を受け、今年度、少子化の現状や学校規模の適正化の基本的な考え方などについて共通理解を図るための懇談会を一関、花泉、千厩、東山、川崎の各地域で合わせて15回開催しました。

出席者からは、少子化などに伴う教育環境確保のための学校統合の必要性などに一定の理解が示されるとともに、より多くの市民の共通理解を得る取り組みについて意見が出されました。その主なものと、学校規模適正化を考えた場合の小規模校などの長所、短所について紹介します。

教育委員会では、より良い教育環境の整備には何よりもPTAや地域の理解と協力が必要という認識の下、今後も話し合いを進めていくこととしています。

市立学校施設整備の状況

（現時点での計画分を含む）

【統合】
18年度…興田小（天狗田・興田・中川・京津畑・丑石）
20年度…一関東中（弥栄・真滝）
21年度…室根東小（折壁・浜横沢）、室根西小（上折壁・釘子・津谷川）
22年度…大原小（大原・内野）
25年度…摺沢小・渋民小・曽慶小

【耐震補強】
19年度…一関小校舎
20年度…中里小校舎、本寺小屋内運動場、老松小屋内運動場、磐清水小屋内運動場、薄衣小校舎・屋内運動場、門崎小校舎、大原中校舎
21年度…涌津小校舎、奥玉小屋内運動場、大原中屋内運動場、室根中校舎

【改築】
20年度…山目小屋内運動場、東山中屋内運動場
22年度…萩荘中屋内運動場
23年度…川崎中校舎・屋内運動場

平成22年度開校に向け校舎建築が進む統合大原小

中里小校舎耐震補強工事

東山中屋内運動場改築工事

◎懇談会で出された主な意見

○学習、部活、地域、文化の伝承など、すべてクリアするのは難しいので、子どもたちにとって何が大切かを判断し統合について考えたい。
○地域の人は地域の学校がなくなるとなれば、統合に賛成と言えないかもしれないが、学校に行くのは子どもたちなので、その教育環境がどうあればいいかを重視したい。
○小さい中学校もいい面もあるが、大きい学校だと部活動などで選択肢が増える。
○統合が３年後、５年後となると、今の保護者は関係ないという形になるため、進める上でのスピードも求められる。
○地域から歩いて通える学校というのも子供たちに必要な環境だと思う。

◎小規模校・複式学級の長所、短所

※複式学級…学校規模が小さい場合、異なる二つの学年を１クラスとする学級編制

	長所	短所
全体的な傾向	○異なった学年との交流が図りやすい。 ○運動会などの学校行事で出場や発表の機会が多い。 ○教職員が全校の児童生徒の実態を把握することができる。	○多様な考えや価値観を持った児童生徒との出会いに恵まれにくいため、知的刺激が少ない。 ○互いに切磋琢磨し向上しようとする意欲やたくましさを育てる環境に欠ける。 ○部活動において多様な種類の部が開設できない。 ○運動会、学芸会などの学校行事において種目や演目が限定され、活気に欠けたり高学年に負担がかかる。
教職員	○教師間で指導方針などについて共通理解が得やすい。	○教職員の配置数が少ないため免許外教科を担当することが多く、専門的な指導を受ける機会が不足する。
学習活動	○一人一人に直接的な指導が行いやすい。 ○自分のペースで学習活動に取り組める。	○発想や着眼点が固定され、相互の考えを交流させ新たな発想を得るなどの発展的な学習が成立しにくい。 ○協同で勉強をしたり他の班の発表を聞いて比較する活動が少ない。 ○体育における団体競技種目、音楽における合唱や合奏活動が展開しにくい。

モニターツアー

体験型旅行で魅力発信

❶二日間のツアーを終え、卒業証書を手渡される参加者
❷卒業旅行で訪れた猊鼻渓を散策
❸ツアー初日、制服のどんぶくを着てもちつきを体験しました

体験・交流型旅行により一関の魅力をじっくり味わってもらうニューツーリズムモニターツアー「大人の楽校（がっこう）　寺子屋いちのせき」は1月23、24の両日、行われました。

一関温泉郷協議会が主催、市や県、民間事業者が連携して、一関のさまざまな「昔」を味わってもらおうとコースを設定。国土交通省観光庁の「ニューツーリズム創出・流通促進事業」の助成を受け、旅行会社とタイアップして行われた同ツアーに仙台市近辺から26人が参加。もちつきや骨寺荘園遺跡散策などを楽しみました。

一関生活改善センターに到着した一行は、楽校の制服である「どんぶく」を着用。佐藤育郎校長（いわて東山歴史文化振興会長）から「息を合わせてもちをつくためにもちつき歌がある」などと一関地方のもち食文化の説明を受け、臼ときねでもちつきに挑戦しました。仙台市から友人5人で参加した堀籠よしえさんは「初めてもちをつきましたが楽しめました」と笑顔を見せていました。

プレわんこもち大会を楽しみ、昼食はもち膳と、もち食に親しんだ一行は、その後一関市博物館テーマ展の見学で当市の歴史を学び、アイスクリームづくりも体験しました。

二日目は骨寺村荘園遺跡の散策でスタート。その後旧沼田家など市街地の史跡を見学し、卒業式会場の世嬉の一酒造へ。佐藤校長が「二日間のツアーを終え、皆さんのにこやかな顔を見て、おもてなしの心が届いたものとほっとしている。仙台にお帰りになったら、どうぞ一関市の宣伝をお願いしたい」とあいさつし、一人一人に卒業証書を手渡しました。

その後一行は猊鼻渓に「卒業旅行」へ。舟下りでは、船頭を務めた千葉美幸さんのユーモアたっぷりの見どころ紹介や、張りのある「げいび追分」の歌声を堪能しました。

名取市から参加した真庭三郎さん（78）、勝子さん（73）夫妻は「一関は通り過ぎたりそれぞれの場所だけを見ることが多かったのですが、今回はゆっくりと見ることができました。骨寺のことは今まで知らなかったのですが、話を聞き実際に歩いて、とてもよくわかりました。もちつきも60年ぶりに楽しみました。温泉だけでなく、歩いて、見て、体験できるこうした旅行はいいですね。皆さんのおもてなしの気持ちも伝わって、楽しいツアーになりました」と満足した表情でした。

モニターツアーは2月にも行われ、新たな旅行者ニーズを探ることで交流人口の一層の拡大を目指します。

旅の感想を述べた真庭三郎さん（右）、勝子さん夫妻